

閉会挨拶

海事センター理事長の平垣内でございます。

本日は、連休明け早々もかかわらず、原さん、後藤さんには大変貴重なご講演をいただき、また、松田先生にはモデレーターを務めていただき、ありがとうございました。

海運の問題につきましては、コロナのころにコンテナの滞留問題が世間的に関心を集めました。昨今は、国内のいわゆる物流 2024 年問題に、世間の関心が集まっております。本日のメインテーマでありました海運のチョークポイントの問題は、これと比べても非常に大きな問題であると思います。

この中でも、パナマ運河とスエズ運河の問題も勿論大変重要なのですが、本日の講演にも言及されたようにマシ海峽、海賊問題など他にも重要な問題があるということを改めて認識させて頂きました。

海運の自由と申しますが、本日の講演にもあったように、マシ海峽の安全確保については、日本の公的な団体による 50 年にわたる長期間の航路安全維持の活動によるものであり、海賊問題につきましては、日本の海上自衛隊のたゆまぬご努力の賜物と改めて認識させて頂きました。

また、本日のご講演では、原さんから、エマージングマーケットであるインドの状況をご紹介いただきました。また海運のアライアンスのそれぞれの特徴についても、詳細にご教示頂きました。

更にコンテナの最新の状況のご説明のなかで、マースクの CEO が最近のコンテナの荷動きは経済情勢とリンクしてないとおっしゃっているとのお話もご紹介頂きました。航空貨物のフェデラルエクスプレスおの荷動きが米国経済の先行市況であると言われておりましたが、大変興味深いご指摘でした。

当センターとしましても、今後とも、本日のテーマのように時宜にかなった話題を提供して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

本日は、長時間、視聴頂き、誠にありがとうございました。